

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.27 2011年2月16日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。冬型のカラカラ天気、年末から一ヶ月以上続いて、寒さもひととき厳しかった今年の冬。雪が降ったり天気のリズムが早くなる中、通りの白木蓮はしっかりつぼみをふくらませていよいよ春近し、です。多くの犠牲者を出した豪雪地帯の方々を思うと、待ち遠しさを超えた悲願ともいえる春の訪れ。我が家のミドリガメも陽光に手足を伸ばしています。不安や怒り、そして諦めが覆う世界と日本ですが、自然の摂理に身をゆだねた植物を見倣い、主の御手の確かさに信頼しつつ春を待ちます。「待ち望め。主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め。主を」(詩篇27:14)

校長 関野祐二

● 火曜朝の新風

後期から新たにクラスを担当したお二人が火曜午前時間枠に。お似合いの髭をたくわえた、日本宣教27年という宣教学のC先生と、若きイケメン(かな?) 説教AのM先生です。7時には車で到着し、準備に余念がないC先生、実は数年前まで神学校敷地に接する宣教師住宅の隣人でした。充実したクラスはもちろんです、チャペルで説教者がギターを弾くのも新たなスタイルで注目度満点。履修は3名で小さな第三教室とはいえ、活発なやりとりが廊下まで伝わってきますよ。M先生は誰の影響か説教課題連発で、クラス学生は恨み節。初年度から「20回授業では足りないので、関連クラスを増やしましょう」と提案する破竹の勢い。原語や聖書学、神学や歴史などの基礎知識を宣教のことばとして適切にアウトプットする訓練は、さしずめオーディオスピーカーのチューンナップみたい(道楽の我田引水)。歪み少なく、帯域広く、しかも個性的な音色で福音を響かせてくださいね。もちろんステレオ(タイプでなく)サウンドで立体的に。

● レポート発表はおもしろい!

わが新約緒論は、テーマを選んで期末に発表する選択レポートが恒例。でも、22名の個別発表はさすがに無理で、初の合同レポートに挑戦しました。二人一組をどう決めるか悩んだのですが、なんのことはない、出席簿順の二人組が美しく絶妙(かどわか神のみぞ知る)ではありませんか。例年の夜クラスなら終了後は「風(ブザー)と共に去りぬ」なのですが、今年は二人組があちこちで真剣な話し合いを遅くまで続けています。全体を二分割して各々が作成したり、最初からひとつのレポートにしたり(まさか一人に押しつけたのでは!?)。教師への質問も二人が束になるので緊張します。発表は持ち時間15分と短く、一人目が長引くと二人目は涙。学生からの質問も活発なこと! 教師よりもよほど配慮に満ちた語り口で、単刀直入すぎる自分を反省しています。御国完成の折、「あなたの資産をこんなに増やしました」と発表するのを夢見つつ。

● ニコライ堂見学

「霊性の神学」クラスでニコライ堂（正式には東京復活大聖堂）を見学に行くとのウワサを聞きつけ、「混ぜてください！」と厚かましくもお願いして、2月初旬の火曜日昼にいそいそとお茶の水へ出かけました。学生時代に始まり、その後のクリスチャン生活でも馴染み深い土地柄ですが、ついそ一度も訪れたことがない、日本ハリストス正教会の総本山です。Y先生に手渡された事前学習資料の分厚さに辟易し、出かける直前に慌てて通読する始末。予備知識なき見学は見物に終わってしまいますから、危ういところでした。教師＋クラスメンバー4名と聖橋口で待ち合わせ、午後1時にいざニコライ堂へ。受付に立つ信徒の方の温かな対応にいやされつつ中へ進むと、都心とは思えない異空間がそこにありました。ステンドグラスや数々のイコンが聖書物語を視覚で表し、五感で主と交わる東方教会の千年にわたる伝統。プロテスタント福音派の立ち位置を堅持しつつも、心広く教会の多様性を味わい、主との深い交わりをどんどん追求したいですね。

帰りしな、学生街の喫茶店でひとしきり会話を楽しみました。不思議な充足感と一体感は、霊性クラスならではの。先駆的なクラスを開講しているわが神学校に、ちょっぴり誇りをもちました。

● 隣りの土地は

あれは昨年の夏頃でしたか、神学校北側の六軒入りアパートと地境確認の立ち会いを求められ、不動産が売買されることを知りました。夜、裏門を閉めながらアパートが次々に空き家となるのを見守ったのも束の間、年明けからアパート解体の大騒音。第二教室から眺める面々は、「家族寮として使いたかった」「土地を買い上げて教育棟を建てたら」「黙想の中庭を作りたい」など言いたい放題です。ほどなくして25坪4区画の「売地」看板と、驚きの高価格表示。郊外なら土地建物でもたくさんおつりが来るほどで、はかなき夢は泡と消えたのでした。自分たちが学ぶこの土地の「ナカメ」（中目黒）ブランド、その付加価値をあらためて認識。更地になったら、大きな三階建てがなくなったおかげで、裏門に向かう道路から本館校舎が丸見えになり、教室内も窓際のおくびが見えるほど。どうりで昼間からカーテン（隙間だらけ）が閉まっている訳でした。

● 今年も訪れたこの時期

問い合わせ電話や願書到着にやきもきする季節が今年も訪れました。受験者の多いことを実りに直結させるのは抵抗ありますが、柿の木のように表年と裏年（？）がある事実は否めず、今年も受験者数がやや少ない様子。どうぞ今からでも主の召しと教会の推薦を受け、受験してください。筆記試験と面接担当の運営委員3名は、長期戦（昨年は夜8時過ぎまで）に備え、万全の態勢で3月4日を迎えます。懇切丁寧にご説明しますから、わからないことはぜひお電話で。

3月14日夜6時半の卒業式は、卒業生で理事の勝俣慶信師が励ましの説教。4月1日夜の入学式は、教師のギャリー・カールソン師です。今年も学生会が心を込めたおもてなしを用意しますから、どうぞおいでください。どんな在校生で4月4日の学期始めを迎えるか、今から楽しみ！

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 卒業予定者の最後の学びと卒業後の進路が守られるように。在校生の後期学びの仕上げ。
- ・ 3月15日～26日の、神学校主催「シナイ山・イスラエルスタディツアー」が有意義かつ安全に催行できるように。参加者の健康が守られ、恵みに満ちあふれるように。
- ・ 聖契神学校の働きが支えられ、キリスト教界における責任ある使命を全うできるように。